

一般社団法人 **日本腎臓学会**
平成 25 年度定例総会
議事録

開催日時：平成 25 年 5 月 10 日(金)13：25～14：25

開催場所：東京国際フォーラム ホール C(第一会場)

議 事

- ・一般社団法人日本腎臓学会理事長 松尾清一 挨拶
- ・平成 25 年度第 56 回学術総会長 富野康日己 挨拶
- ・総会成立の確認
- ・議事録署名人選出

1. 平成 24 年度事業・庶務ならびに各委員会報告

- ・事業報告承認の件・庶務報告
- ・各委員会報告

2. 平成 24 年度収支決算承認の件

3. 平成 24 年度業務・会計監査報告

4. 平成 25 年度事業計画報告

5. 平成 25 年度収支予算報告

6. 名誉会員候補者承認の件

7. 評議員候補者承認の件

8. 平成 29 年度(第 60 回)学術総会長報告

9. 平成 28 年度(第 46 回)東・西部学術大会長報告

10. その他

- ・平成 26 年度第 57 回学術総会長 渡辺 毅 挨拶
- ・平成 27 年度第 58 回学術総会長 松尾清一 挨拶
- ・名誉会員証授与
- ・第 3 回上田賞授与
- ・優秀論文賞・ベストサイテーション賞授与
- ・大島賞授与(総会終了後受賞講演)

・**理事長挨拶**

松尾清一理事長から開会の挨拶に続き、これまでの学会員の協力に対する謝辞があった。また、政権が交替したことにより情勢が変化しつつある。腎臓学会に関連することとして、平成 26 年度から日本腎臓学会の研究班が属している厚労省の難病研研究班が、今まで疾患ごとに立ち上がっていた研究班が一本化され、各学会と密接な連携をとって行われるなど全面改組される。今後、ヘルスケアの分野に対しては様々な施策が講じられるようであり、日本腎臓学会としては、先生方の意見を聞きながら積極的に提言をしていくので協力をお願いしたいことの依頼があり、議事に入った。

・**学術総会長挨拶**

富野康日己学術総会長から開会の挨拶と学会員の協力により開催できたことの謝辞があった。

・**総会成立の確認**

松尾清一理事長から、現在の正会員数は 9,433 名で、本日の出席者数は 259 名、委任状出席者数が 4,563 名で、合計 4,822 名、51.1%の出席があり、定足数を満たし総会が成立している旨の確認があった。

・**議長並びに議事録署名人の選出**

出席正会員により、本総会の議長に松尾清一理事長が互選された。ついで、議事録署名人に議長の松尾清一理事長と総会出席者の富野康日己理事、渡辺 毅理事が選任された。

議事 1-1. 事業概要(承認事項)並びに庶務報告 議題-1

守山敏樹幹事長から、平成 24 年度にご逝去された会員の報告があり黙祷を行ったあと、平成 24 年度に実施した事業として学術総会・東西部大会、出版関係、腎疾患に関する調査・検討、腎臓病対策についての普及・啓発・後援、国際交流、褒賞および研究業績の顕彰などについて概要の報告があった。

つづいて、平成 25 年 3 月 31 日現在の会員動向が報告された。正会員 9,433 名、名誉会員

59 名の合計 9,492 名、団体会員 27、賛助会員 43 の合計 70 団体である。また、専門科別および都道府県別の会員数、評議員数、学術評議員数の報告があった。

なお、本年度から定款改正に伴い、評議員および学術評議員名称は評議員とすることの報告があった。

以上の説明の後、事業報告について意見を求めたが異論はなく、全会一致で承認された。

1-2. 編集委員会

木村健二郎委員長から編集委員会の報告があった。

1) 「日本腎臓学会誌(JJN)」 「Clinical and Experimental Nephrology (CEN)」 「CEN Case Reports」の投稿・査読・掲載状況

CEN は 360 編の投稿があり、その内海外からの投稿は 204 編、採択率は 41.1 %、CEN Case Reports の投稿は 114 編、その内海外からの投稿は 21 編であり、採択率は 49.1 %であった。JJN は 31 編の投稿があり、大きな差はなかった。

2) 2012 年優秀論文賞の選考結果の件

平成 25 年 3 月 22 日に開催した第 2 回編集委員会において、下記 3 編の優秀論文賞、2 編のベストサイテーション賞を選出した。

○優秀論文賞

・ CEN Original Clin Exp Nephrol 2012 ; 16 : 530-538

著者：須佐紘一郎(東京医科歯科大学医学部腎臓内科)

・ CEN Original Clin Exp Nephrol 2012 ; 16 : 115-121

著者：宮原義登(福岡大学医学部腎臓・膠原病内科)

・ Case report CEN Case Rep(2012)1 : 7-11

著者：前嶋明人(群馬大学大学院医学研究科生体統御内科学)

○ベストサイテーション賞

・ CEN Review Clin Exp Nephrol 2005 ; 9 : 195-205

著者：榎本 篤(杏林大学薬理学・名古屋大学大学院医学系研究科腫瘍病理学)

・ CEN Original Clin Exp Nephrol 2010 ; 14 : 112-122

著者：井上紘輔(高知大学医学部附属病院内分泌代謝・腎臓内科)

3) 投稿規定改正の件

掲載料無料化に伴い投稿 word 数を制限することの報告があった。

1-3. 学会あり方委員会

富野康日己委員長から学会あり方委員会の報告および提案があった。

1) 平成 25 年 4 月 1 日から一般社団法人へ移行した。

2) 新名誉会員候補者推薦の件(承認事項) 議題-6

新名誉会員候補者として、上田尚彦、小山哲夫、原茂子の各功労会員が推薦され、承認された。

3) 新功労会員の件

秋澤忠男以下 25 名が新功労会員となった。

4) 更新評議員選考の件(承認事項) 議題-7

更新評議員候補者として岩男 洋以下 233 名の推薦があり、承認された。

5) 新規評議員候補者選考の件(承認事項) 議題-7

新規評議員候補者として荒木信一以下 39 名が推薦され、承認された。

6) 第 2 回日本腎臓学会上田賞推薦の件

第 2 回日本腎臓学会上田賞を下記 5 名の名誉会員にお贈りすることとした。

成田光陽 名誉会員 1927年11月17日生 85歳
 大澤源吾 名誉会員 1932年06月11日生 80歳
 荒川正昭 名誉会員 1936年03月02日生 77歳
 黒川 清 名誉会員 1936年09月11日生 76歳
 浅野 泰 名誉会員 1939年11月10日生 73歳

1-4. 専門医制度委員会

今井裕一副委員長から専門医制度委員会の報告があった。

1) 平成25年第21回腎臓専門医試験(合否判定)の件

今回の受験者数は264名で、合格者は249名。不合格者は内科15名、小児科0名、泌尿器科0名の計15名、合格率は94.3%であった。

2) 平成24年度腎臓専門医、指導医、研修施設の新規認定、更新の件(報告事項)

平成24年度腎臓専門医、指導医、研修施設の新規認定、更新について下記の報告があった。

	新規	更新	総数
腎臓専門医	249名	509名	758名
指導医	75名	146名	221名
研修施設	24施設	54施設	78施設

3) 学会が承認する研究会の件

学会が承認する研究会として3研究会を認定した。

京都腎臓免疫研究会、中部日本糸球体腎炎談話会、奈良腎臓懇話会

1-5. 国際委員会

伊藤貞嘉委員長から国際委員会の報告があった。

1) ISN 会員への加入を促進するとともに、メーリングリストを作成し今後のコミュニケーションを図っていくこととし、HP から登録できるよう措置を講じた。

また、東部・西部腎臓学会にて登録のお願いの文章を参加者に配布した。

2) 2013年香港で開催される WCN へ、できるだけ多くの方に参加してもらうために法人評議員、学術評議員及び一般会員あてのお願いの連絡をするとともに、HP にも掲載した。また、掲載記事を東部・西部腎臓学会にて参加者に配布した。

3) 第56回日本腎臓学会学術総会アジアの夕べ・APCN2014の連携企画として、アジア各国の若手研究者に対し「アジア国際交流の夕べ」の演題抄録応募を促し、JSN 内で優秀演題を選出した後、「アジア国際交流の夕べ」において演題発表を行い、さらに最優秀演題に選出された者を APCN2014 に招待し、日本の若手研究者との間で APSN 及び JSN より選出された審査員により、Young Investigator Awards for Asian Nephrology (YIAAN) に選ぶことを決定した。

4) 10月13日開催のインドネシア腎臓学会に原 正則先生が参加し、尿中ポドサイトについて講演を行った。

5) ASN 期間中に、ASN 会頭 Ronald Falk および council の先生方による呼びかけで、日本腎臓学会松尾理事長、国際委員会伊藤委員長、和田幹事、南学委員、西山委員、柳田委員との会合が行われ、今後 ASN/JSN の連携を強化すること、それに伴い ASN/JSN 共同教育プログラムを日本で行うこと、NephSAP の日本語訳を出すこと、に関する提案があり、松尾理事長から前向きに検討し理事会で討議する旨の返答があった。それに伴い、松尾理事長より、ISN/JSN 連携強化委員会をグローバル連携強化委員会と改名し、実務に当たるよう提案があった。

6) KDIGO より、ガイドラインに関する教育的ミーティングを日本で行いたい、との要望があり、第43回東部学術大会後に開催する予定である。

7) 腎病理国際会議を2015年3月12-15日につくば市で開催する予定である。

8) AFCKDI International Advisory Council 会議を2012年11月2日 ASN 会期中に開催した。第7回総会はタイ、第8回総会は2014年に日本で行われる APCN と併設することが決定された。

9) 日中韓腎カンファレンスビジネスミーティングが平成25年3月23日ソウルで開催された。今後の日中韓腎カンファレンス形態等について協議した。

1-6. 企画・渉外委員会

武曾恵理委員長から企画・渉外委員会の報告があった。

1) 腎臓病療養指導士に関する検討 WG について

腎臓病療養指導士の設置に向け、職種の範囲、位置づけ・インセンティブ等具体について検討するとともに、施設基準等についても糖尿病透析予防指導の施設基準・算定要件についても参考にしながら検討を行っている。

2) 医事委員会について

平成 26 年度診療報酬改定に向け、次の改正を内保連に提案した。

- ・経皮的生検法について、現行の 1,600 点から 4,000 点への増点
- ・肺出血または急速進行性糸球体腎炎を呈する抗白血球細胞質抗体 (ANCA) 関連血管炎に対する血漿交換療法の新設
- ・抗糸球体基底膜抗体型急速進行性糸球体腎炎 (Goodpasture 症候群を含む) に対する血漿交換療法の新設
また、急速進行性腎炎型のループス腎炎に対する血漿交換療法の実施回数を 10 回に増やせるよう求めている。

3) IgG4 関連腎臓病 WG について

平成 23 年度に発表した IgG4 関連腎臓病診療指針について、「IgG4 関連腎臓病の臨床病理的特徴を明らかにするための多施設共同後方視的研究」の登録症例から、検証を行っており、現在、目標数の 50 例以上に達したが、臨床的に典型的と思われる症例 30 例以上、対照群 (他疾患による尿細管間質性腎炎) 20 例以上をもとに検証することが、統計学的処理上必要であることが分かり、さらに症例の集積を図っている。

また、IgG4 関連腎臓病の病態解明について、臨床像と腎組織像の検討会を第 10 回 WG 会議に併せて実施し、活発な討議を行い、病態解明の成果を上げることができた。その結果は、今年夏出版予定の IgG4 関連腎臓病解説書にも反映される予定である。

4) 腎移植推進委員会について

「腎不全 治療選択とその実際」について大幅に改定した 2012 版を作成し刊行した。また、先行的献腎移植登録希望審査を 2012 年 7 月に開始した。

さらに、肝腎同時移植症例での献腎移植登録システムおよび先行的献腎移植登録システムの課題について提案した。

5) 基礎研究支援プログラム審査委員会について

平成 24 年度は 3 名の応募があり、1 名を採択した。この 1 名は、平成 24 年 6 月から 12 月まで筑波大学において研究し、現在論文を準備している。

6) 男女共同参画委員会について

- ・平成 24 年度学術総会での黒川先生と桃井先生の対談を日本腎臓学会の HP 上の男女共同参画委員会のパネルに貼り付けるとともに、DVD を作成した。
- ・平成 24 年度東西学術大会において、女性医師のキャリアプランとともに、若手医師の育成など、男性の立場を含めて討論した。
- ・平成 25 年度東西学術大会においては、女性を含めた若手研究者のキャリアプランと次世代の男女共同参画をテーマとして準備を進めている。

1-7. 広報委員会

井関邦敏委員長から広報委員会の報告があった。

1) 広報委員会活動報告の件 (報告事項)

(1) ホームページによる広報活動の充実について

① アクセス状況 (日本語版ページ)

【平成 24 年度】

1 年間 987,338 件 (平成 23 年度 811,845 件)

1 カ月平均 82,278 件 (平成 23 年度 67,653 件)

1 日平均 2,705 件 (平成 23 年度 2,224 件)

② アクセス状況 (英語版ページ)

【平成 24 年度】

1 年間 2,877 件(平成 23 年度 3,512 件)
 1 カ月平均 239 件(平成 23 年度 292 件)
 1 日平均 7.8 件(平成 23 年度 9.6 件)

③他学会・研究会その他掲載状況

案内 21 件, 公募情報 4 件, 官公省からの通知等 11 件

(2) 腎臓学会のイベントの広報状況について

メーリングリスト登録数：一般会員 4,546 名, 評議員 186 名, 学術評議員 371 名

学術評議員(432 名)中, ご登録は(371 名)と約 60 名登録されておらず, 催促の連絡をし, 全員登録して頂くこととした。

2) キーパーソンの件(報告事項)

第 56 回学術総会会期中の 5 月 11 日(土)東京国際フォーラムにおいて, 広報委員会キーパーソン会議開催し, 具体的課題, 活性化策を検討する。議題として,

①「広報委員会からキーパーソンへのお願い」と「キーパーソン活動の具体例」

②「CKD 普及活動について」の講演(八田 告先生)

③「腎臓病総合レジストリー活動内容について」の講演(杉山 齊先生)

を予定していることの報告があった。

3) バナー広告の件(報告事項)

現在 2 社(中外製薬・ノバルティス)のバナー広告が掲載されているが, 昨今, 各社の支援が厳しくなっていることから, どのような対応が効率的かを検討した。

1-8. 総務・倫理委員会

横山 仁委員から総務・倫理委員会の報告があった。

1) 総務委員会の件

平成 24 年度の刊行物からの転載許諾件数(H24.4~H25.3)

ガイドライン種別	申請件数	許諾件数			否
		変更なし	変更許容範囲	修正	
CKD 診療ガイド 2009	21	10	3	6	2
CKD 診療ガイド 2012	205	97	17	90	1
EBM に基づく CKD 診療ガイドライン	9	6	1	2	0
CKD 診療ガイド高血圧編	1	0	0	1	0
腎障害患者におけるヨード造影剤使用に関するガイドライン 2012	5	5	0	0	0
その他	21	8	3	10	0
合計	262	126	24	109	3

2) 倫理委員会の件

(1) 平成 24 年度については倫理審査 3 件申請があり, すべて承認した。

(2) 内科関連 14 学会 COI 指針検討会の共通指針に沿って, 日本腎臓学会の利益相反に関する規定改定案を作成した

1-9. 学術委員会

堀江重郎委員長から学術委員会の報告があった。

1) 学術委員会活動報告(報告事項)

厚生労働省・日本医学会から ICD-11 改訂のレビューア 1 名の推薦依頼があり, 南学正臣先生を推薦したことおよび日本透析医学会からの依頼により, 「慢性腎臓病に伴う骨・ミネラル代謝異常の診療ガイドライン」の英文版の査読をおこなった。内容に問題なく承認したことの報告があった。

2) エビデンスに基づく CKD 診療ガイドライン改訂委員会報告

日本腎臓学会が発行する診療指針・診断基準・ガイドライン等の増加に伴って, パブリックコメントを募集する機会が増えているが, 投稿者の主張と学会の方針が相容れない場合に, 常識的なパブリックコメントのあり方から逸脱し, 投稿者側にも学会側にも深刻な事態が発生する事例がみられることから, パブリックコメント募集と回答に関するルールを設定した。

①パブリックコメントを日本腎臓学会員に求めた場合には, 会員のコメントのみを受け付ける。非会員や入会予定者のコメントは受け付けない。

②パブリックコメントは主張点を明確にして, 1 つの問題点に対して 1500 字以内で作成していただく。

③同じ趣旨の意見が複数ある場合には, 個々に回答するのではなく, 作成委員会側でコメントをまとめて, それに対して回答する。

また, 従来ガイドを作成しガイドラインを作成しているが, ガイドラインを先に作成しガイドを作成することとした。

3) CKD 診療ガイド改訂委員会報告

CKD 診療ガイド 2012 年版が 6 月 1 日(第 55 回学術総会会期中)先行発刊となった。その後, 微修正が行われ 7 月 1 日 2 刷発刊となり, 8 月 1 日ホームページで公開した。会員や一般の方からの質問を受け, 随時委員より回答している。

4) 慢性腎臓病に対する食事療法基準作成委員会報告

平成 25 年度における完成を目指している。

5) 血尿診断ガイドライン改訂委員会報告

査読意見による改訂後, 各学会でパブリックコメントを求め, それに伴い推敲を重ね完成した。日本医師会の推薦文を依頼している。

6) 腎疾患患者の妊娠—診療の手引き改訂委員会

10 月 13 日第 1 回委員会を新潟で東部大会会期中に開催した。

3 月 2 日「腎と妊娠研究会」において, 参加の委員に対して, 改訂の項目案と担当案を提示し検討した。第 2 回を第 56 回学術総会会期中に予定している。

7) 初心者のための電顕図譜復刻版作成について

復刻版のパワーポイントが完成し, 3 月 26 日より日本腎臓学会ホームページで会員向けに公開している。序文を松尾清一先生, 榎野博史先生, 太田善介先生に執筆いただいた。

8) 非典型的溶血性尿毒症症候群診断基準作成委員会報告

日本腎臓学会と日本小児科学会が協力して合同の aHUS 診断基準作成ワーキング・グループを立ち上げ, 外部招聘委員の御協力も頂き, 非典型溶血性尿毒症症候群(aHUS)診断基準が完成した。2 月 1 日両学会のホームページにアップロードし, 各学会誌に掲載した。

9) 抗癌化学療法に伴う腎障害のガイドライン作成委員会

日本腎臓学会, 日本癌治療学会, 日本臨床腫瘍学会, 日本腎臓病薬物療法学会からの代表委員とアドバイザーとして京都大学中山健夫教授, 聖路加国際病院福井次矢氏のご出席いただき, 第 1 回委員会を 2 月 20 日に開催した。

各委員により CQ 案が作成され 5 月 29 日開催予定の第 2 回委員会で検討する。

10) KDIGO ガイドライン全訳版作成ワーキングチーム報告

KDIGO ガイドライン全訳版作成ワーキングチームが発足し, 1 月 27 日(日)

KDIGO の CEO : John Davis, Managing Director : Danielle Greene を迎え, 第 1 回会議を開催した。本翻訳は, KDIGO Translation Policy 基づくものであり, 「KDIGO による翻訳」に該当する唯一の公式和訳となる。

1-10. 慢性腎臓病対策委員会

横山 仁委員長から慢性腎臓病対策委員会の報告があった。

1) 慢性腎臓病対策委員会の平成 24 年度活動報告と平成 25 年度活動計画の件

CKD の啓蒙と対策を学会および慢性腎臓病対策協議会(J-CKDI)等の学会外機関と連携して実施する。また、各小委員会の連携と活動継続を支援する。

平成 24 年度慢性腎臓病対策委員会の実施事項として

- ①厚労省戦略的アウトカム研究として実施した From-J 研究の後のコホート研究 FROM-J2 研究を平成 24 年度より JSN として財政支援するとともに、JSN として実施すべき臨床研究や事業を財政的に支援する体制を整備した。
- ②CKD 診療ガイド 2012 を発表し、これに基づいた普及啓発活動を行った。
- ③腎代替療法の開始時期とインフォームドコンセントについては日本透析医学会の透析導入基準の見直しを待ち協議を継続した。
- ④薬剤師関連学術団体との CKD 対策を推進する。日本腎臓病薬物療法学会の「腎臓病薬物療法専門薬剤師」制度について協議した。
- ⑤内閣官房情報通信技術(IT)担当室と連携して「腎臓疾患に関するデータセット」の策定をワーキンググループにおいて検討した。
- ⑥腎疾患重症化予防実践事業実施法人として応募し、西日本・中日本地区の実施法人に選定され、事業を実施した。

2) 疫学研究小委員会

- ①血清シスタチン C による GFR 推算式の論文化と普及に努めた。
- ②アジアの GFR 推算式作成を支援した。

3) FROM-J2 小委員会(報告事項)

- ①当初から戦略研究終了後は日本腎臓学会で承継してデータ管理を行う予定であり、日本腎臓学会内で行う臨床研究として予算措置いただき、FROM-J2 としてコホート研究を平成 25 年度まで継続の予定である。
- ②5 年間の介入・観察期間終了後、各地区医師会において CKD 地域連携ミーティングの開催(10 月以降)と各地区での報告会を開催する予定である。
- ③引き続きデータ収集を行い、介入〇年目、10 年目の追跡調査を行いたい、このことについては委員会で検討していく。

4) 腎臓病健診のあり方検討委員会

特定健診事業ないし CKD 早期発見のための各種健診事業の見直しに際し、日本腎臓学会としてわが国のエビデンスを集積し専門家の立場より対策(CKD の認知度向上、健診受診率の増加、血清クレアチニン測定必要性)を提言する。また、本年度の予定として特定健診受診対象者とのアウトカム検索目的で 2008～2010 年度の全国の死亡個票を入手した。今後、健診受診者との突合作業を行う。現在、2008 年度のデータベース(約 58 万人)を作成し、解析を進めている。本年度はさらに 2009～2011 年度までの縦断研究を開始し突合作業を進める。なお、前回承認された「一般用検査薬たる尿検査薬の範囲拡大について」の要望書を提出する予定である。

5) 臨床研究推進委員会

今年度の活動計画として

①臨床研究推進委員会による臨床研究

- ・かかりつけ医における CKD 診療実態調査：GFR 推算式や CKD 診療ガイドの普及度(専門医への紹介基準等)を日本医師会と協力のもとアンケート調査する。高血圧患者の尿検査、尿タンパククレアチニン比なども含む。
- ・CKD 診療連携実態調査：JSN 教育指定病院を中心に、かかりつけ医から紹介された CKD 患者の調査を行う。専門医の診療連携への取り組み、CVD スクリーニングなども含む。

②臨床研究推進委員会による臨床研究の公募と支援

腎臓学会として、必要度、緊急度および財源等を考慮した重要な課題を決めてそのプロジェクトを募集する形式のものにすることとし、細部を詰めていくこととした。

6) 腎疾患レジストリー腎病理診断標準化委員会ならびに腎疾患データベース地域・領域中核ワーキング

①腎臓病総合レジストリー活動

- ・登録施設と登録数の増加：参加施設は 130 施設と 5 施設(4.0%)が増加したが、2013 年の登録継続の意思確認について、2 施設より登録休止の連絡があった。2012 年に 4,521 例の登録(J-RBR 3,990 例(88.3%), J-RBR 以外 531 例(11.7%))が行われ、2012 年末時点で累計 20,050 例の登録が行われた。
- ・7 つの研究プロジェクトを二次研究として登録した。
- ・HbA1c の登録内容(JDS, NSGP 両記載)を修正した。
- ・腎臓病総合レジストリー利用申請(データ利用, 公募研究, アクセス権)は、これまで 17 件行われた。
- ・CEN への報告を行った(印刷 2 論文, on line 1 論文)。

②第 56 回学術総会で「委員会プログラム」を企画した。

③腎生検データベース構築病理 WG(小委員会)について

- ・「腎病理夏の学校」が 2012 年 9 月に山形で開催され 136 名の出席者(講義のみ 22 名)があった。
- ・2012 年 12 月 21 日に電子版「腎生検病理アトラス」が発売された。今後は電子版のみに移行する予定であり、改訂等については今後検討する予定である。

④腎疾患データベース地域・領域中核 WG(小委員会)の活動として、重点疾患や頻度の高い疾患のみならず、稀少疾患(リボ蛋白糸球体症, アミロイド腎症など)の拾い上げについても、備考欄を活用しながら登録を進めた。

平成 25 年度の活動としては以上のことを継続すると同時に、腎臓病総合レジストリーの登録内容の検証を行い、精度管理に供する活動を継続する。とくに単状分節性糸球体硬化症の分類の問題点および膜性増殖性糸球体腎炎について、全国から収集し、バーチャル化した症例を用いた病理組織の解析を行い、その実態と分類の再評価についての検討を行うこととする。

7) 腎臓疾患に関するデータセット策定に関するワーキング

「どこでも MY 病院構想」について、「腎臓疾患に関するデータセット作成 WG」から進捗状況およびミニマム項目最終案等についての報告があった。

「どこでも my 病院 CKD データセット」へ名称変更され、これらのミニマム項目以外のものについても「どこでも MY 病院 CKD 記録」(今後作成)の中に取り込む予定であり、CKD に対するアプリケーションやデータベース作成において「CKD ミニマム項目セット」を基盤とするよう広報することとしたことの報告があった。

8) 日本慢性腎臓病対策協議会

平成 25 年 3 月 3 日、日本慢性腎臓病対策協議会および日本腎臓財団の主催による CKD 啓発イベント講演会を東京で開催、3 月 10 日には IKEA-J との共催で「キドニーウオーク」を東京で開催、3 月 16 日には世界腎臓デー「CKD 啓発イベント」および厚生労働省主催の「慢性腎臓病(CKD)シンポジウム」が同じく東京で開催された。

また、WKD 用ノベルティグッズの作製配布、各地方での懸垂幕掲出活動が行われたことの報告があった。

9) 糖尿病性腎症合同委員会

今回から日本透析医学会の委員が大幅に交替されたこと、日本病態栄養学会からオブザーバー委員が参加することになったこと、主な審議事項として「腎症病期分類の改訂について」協議を行っていること、および「糖尿病性腎症ならびに腎硬化症の診療水準向上と重症化防止にむけた調査・研究」においては糖尿病性腎症のレジストリーと連携して行っていること、糖尿病性腎症と腎硬化症の病理診断基準案を作成していること、バイオマーカーの開発を行っていることなどが報告された。

10) 人間ドック学会との合同委員会

第 53 回日本人間ドック学会学術総会において、症例検討「人間ドックにおける CKD(慢性腎臓病)と血尿をどう考えるか」を企画したことおよび疫学小委員会と協力した CKD 調査につき検討したことの報告があった。

11) 薬剤師関連学術団体との合同委員会

日本腎臓病薬物療法学会の専門・認定薬剤師制度に関して、日本腎臓学会からは委員の派遣、テキストへの松尾清一理事長の推薦文寄稿およびテキストの内容についての JSN 評議員メール等でパブリックコメントを求めたことの報告があった。

12) 平成 25 年度腎疾患重症化予防実践事業実施法人応募および評価結果の件(報告事項)

平成 25 年度腎疾患重症化予防実践事業実施法人事業に応募し、平成 24 年度に引続き事業実施者とされたことの報告があった。

1-11. 学術総会企画委員会

大野岩男委員長から学術総会企画委員会の報告があった。

1) 第 56 回学術総会報告

富野康日己総会長から第 56 回学術総会を無事開催することができたことの報告があり、プログラム作成に係る関係者への謝辞があった。次いでプログラムの概要説明ののち、学術総会での協力依頼があった。

2) 第 57 回学術総会プログラム委員会の件

第 57 回学術総会のプログラム委員決定し、プログラム委員長は、松尾清一次期総会長が担当することとなった。

3) 平成 29 年度第 60 回学術総会長の件

第 60 回学術総会長に伊藤貞嘉理事が決定した。

1-12. 財務委員会

大野岩男副委員長から財務委員会の報告があった。

1) 平成 24 年度収支決算の件(承認事項)議事-2

①平成 24 年度は資産合計が 551,029,600 円、負債合計が 60,246,819 円となり正味財産合計が 490,782,781 円であった。今年度より正味財産残の 490,782,781 円を、実施事業である研究調査奨励事業、出版啓発事業、交流事業の 3 事業の損益により支出していくことになる。当年度の実施事業損益は△142,269,749 円となり、今後も当年度と同額程度の損益が出るとすると約 4 年で公益目的支出計画が終了することになる。

②流動資産の現預金が前年度末に比べて大幅に減っている。この原因としては、厚労省の委託事業が精算払いのため未収入となっていること、特定資産に 4000 万円弱を振り替えていること等が考えられる。

③経常収益は、会場収益が前年度より 2,000 万円増だったこと、厚労省受託事業収入が 1,530 万円あったこと、CKD 診療ガイドの印税収入が 950 万円あったことにより 4,900 万円増の 469,482,182 円だったのに対し、経常費用は委託費の増額等により 473,768,768 円となり、当期経常増減額は 4,286,586 円のマイナスとなった。

④平成 24 年度の会費納入状況は 92.77 %であり、やや前年を上回っている。

⑤平成 24 年 4 月 10 日に公認会計士による監査が実施された。財務諸表は 20 年基準に準拠し合理的な事業配賦がおこなわれており、適正に表示されていることが報告された。

2) 平成 24 年度業務・会計監査の件(監査報告)

渡辺 毅監事から、平成 25 年 4 月 19 日(金)に監査を実施し「事業および会計とも適正である」旨の報告があった。

以上の説明について、松尾清一理事長から平成 24 年度収支決算について意見を求めたが異論がなく、全会一致で承認された。

4. 平成 25 年度事業計画の件

守山敏樹幹事長から平成 25 年度事業計画の報告があった。

5. 平成 25 年度収支予算の件

大野岩男副委員長から平成 25 年度収支予算の報告があった。

6. 平成 28 年度第 46 回東・西部学術大会長の件

平成 28 年度第 46 回東部学術大会長として服部元史氏(東京女子医科大学・小児科)、および西部学術大会長として藤元昭一氏(宮崎大学・腎臓内科)が決定したことの報告があった。

7. 閉会の辞

松尾清一理事長から、総会進行への謝辞が述べられ閉会した。

以上

8. 引き続き、

1) 渡辺 毅第 57 回学術総会長から挨拶及び概略の説明があった。

2) 松尾清一第 58 回学術総会長から挨拶及び概略の説明があった。

3) 松尾清一理事長から、下記の賞が授与された。

- ・名誉会員証 上田尚彦, 小山哲夫, 原 茂子 3氏
- ・上田賞 成田光陽, 大澤源吾, 荒川正昭, 黒川 清, 浅野 泰 5氏
- ・優秀論文賞 須佐紘一郎, 宮原義登, 前嶋明人 3氏
- ・ベストサイテーション賞 榎本 篤, 井上紘輔 2氏
- ・大島賞 蘇原映誠, 土井研人 2氏

平成 25 年 5 月 10 日

一般社団法人日本腎臓学会

議事録署名人

議長 松 尾 清 一 ㊟

署名人 富 野 康日己 ㊟

署名人 渡 辺 毅 ㊟